2020 年度　第 1 回 7 月阪大本番レベル模試地理　採点基準

1　単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは０点。

2　論述問題

①「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。

②　以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3　共通減点基準

①　加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは１点減点。

②　下線の付け忘れは１点減点。

③　指定用語不使用は１点減点。

④　字数オーバーは１点減点。

＊減点しなくていい要素，その他の注意

①　地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇔スロベニア，パキスタン⇔パーキスターンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。

②　加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は０点だが，減点はしない。

③　加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。

④　文章が未完のものも減点しない。

4　採点記号について

１．＜□□□□＞　加点ポイント

２．□□□□×　　事実に誤認あり

３．□□✔□□　　誤字あり／脱字あり

5　設問別加点基準

1）＿＿＿＿＿部分は必須キーワードであり，この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
2）○○／△△　は「○○でも△△でも可」を意味する。
3）「②（①の説明として）」は，加点ポイント①を正解していなくても，加点ポイント②に該当すれば加点する。
4）「　A　」が「　B　」→1 点　は，「　A　」と「　B　」の両方の要素があれば 1 点加点する。
5）[指定語句]　は，文中のどこかで使用していれば減点しない。

（Ⅰ）配点 50 点

問 1　20 点
永久凍土の融解は，建物の倒壊や道路の破損などを招くほか，地中の温室効果ガスが大気中に放出されることで，地球温暖化をさらに加速させる。また，北極海の海氷の減少は，ホッキョクグマや海獣等の生物の活動範囲を狭め，繁殖を困難にさせるほか，海底資源の開発が容易になることで，沿岸国による領有権争いの原因となる。一方で，北太平洋と北大西洋を短距離で結ぶ北極海航路の開発が見込めるなど，経済面では効果も期待できる。
【加点ポイント】
ⅰ）永久凍土の融解について（10 点）
①　建物の倒壊／道路の破損　など地上の建造物への悪影響　→3 点
②　地中の温室効果ガス（メタン・二酸化炭素など）の放出　→3 点
③（②により）地球温暖化の加速　→4 点
ⅱ）北極海の海氷の減少について（10 点）
①　海獣等の活動範囲を狭める／ホッキョクグマ（アザラシ）の生息数減少／海水の酸性化による魚類の減少／生態系の破壊
②　海底資源の開発が進む／海底資源の領有争いが起こる
③　北極海航路の開発／北太平洋と北大西洋が短距離で結ばれる／ヨーロッパとアジア（アジアと北米東海岸）の短距離航路の実現
④　先住民（イヌイット／エスキモー）の狩猟活動ができなくなる
（※元々海にある海氷が溶けて流れ込んでも、海水が膨張する程度で、海面はほとんど上昇しないので「海面上昇による影響」は加点しない）

1 つ 4 点
最大 10 点まで

問 2　15 点

サンゴ礁から成る島国は，海水温の上昇に伴う白化現象で観光資源としてのサンゴを失うほか，海面上昇による低平な国土の水没で，生活の場を失う危険が高まる。また，日本は，熱帯の病原体を媒介する蚊の棲息や越冬が可能になることで，従来は熱帯の風土病とされてきた感染症が流行したり，熱中症が増えたりする恐れがある。

【加点ポイント】

ⅰ）サンゴ礁からなる島国への影響について（7 点）

①　国土水没／国土面積の減少／家屋など生活場所の水没
　　／地下水の塩水化による農地の塩性化／井戸水に海水が混じる　→2 点

②（①の要因）海面上昇　→2 点

③　観光資源が減る／観光業を脅かされる／観光客が減る　→1 点

④（③の要因）サンゴ礁の白化／サンゴ礁の減少　→2 点

ⅱ）日本での健康への影響について（8 点）

①　感染症（デング熱／ジカウイルス／マラリアなど）の増加
　　／熱帯地域の風土病が日本でも増加する　→4 点

②　熱中症の増加　→4 点

問 3　15 点

アメリカ合衆国はトウモロコシ，ブラジルはサトウキビを原料とするバイオエタノールを増産してきた。これらは原料の植物が光合成で二酸化炭素を吸収して育つため，大気中の二酸化炭素を増やさない燃料とみなされる。しかし，アメリカ合衆国では需要の増加を背景に，トウモロコシとそれを飼料とする畜産品の価格が高騰した。

【加点ポイント】

ⅰ）バイオエタノールの原料について（6 点）

①　アメリカ合衆国はトウモロコシ　→3 点

②　ブラジルはサトウキビ　→3 点

ⅱ）カーボンニュートラルについて（5 点）

①　原料の植物が光合成で二酸化炭素を吸収して育つ
　　／燃焼時の二酸化炭素増加分は原料生育時の二酸化炭素吸収分で相殺される　→5 点

ⅲ）アメリカ合衆国での問題について（4 点）

①　トウモロコシの価格の上昇（高騰）　→2 点

②（①により）飼料価格の上昇／畜産品の価格の上昇／食料価格の高騰　→2 点

（Ⅱ）配点 50 点

問 1　20 点

郊外Ａは既成市街地の拡大で都市化したため，農地，住宅地，工場が混在するスプロール現象が生じ，無計画に敷設された道路網が引き起こす交通渋滞などの問題がみられる。一方，ニュータウンの建設で都市化した郊外Ｂには，開発直後に働き盛りの世代が一斉に入居したが，彼らが老齢に達し，近年，急速に高齢化が進んでいる。また，彼らの子供達が学齢を過ぎ，開発当初に設置した学校の数が過剰になったため，学校の統廃合も急増した。

【加点ポイント】

ⅰ）郊外Ａの都市問題について（10 点）

①　スプロール現象が生じている　→5 点

②（①について）農地，住宅地，工場が混在（隣接）する

／住宅や市街地が虫食い状に郊外に広がった

／郊外の地価が安いところに住宅や工場が無秩序に建設された　→2 点

③（都市問題として）交通渋滞／騒音／悪臭／公園・下水道などの不整備

／緑地の減少／景観の悪化　など　→3 点

ⅱ）郊外Ｂの都市問題について（10 点）

①（問題の背景）働き盛りの世代が一斉に入居した／団塊の世代が一斉に入居した

／同じ世代が一斉に入居した　→4 点

②（都市問題として）高齢化の進行／少子高齢化の進行　→4 点

③（都市問題として）学校数が過剰となった／学校の統廃合が進んでいる　→2 点

問 2　15 点

終戦直後は職を求める地方出身者の流入で人口が増えたが，1950 年代中頃からは過密に伴う住環境の悪化と地価高騰で人口が郊外へ流出するドーナツ化現象が進んだ。1990 年代前半のバブル経済崩壊後は地価の下落で再開発が進み，再高級化した街に富裕層が入居するジェントリフィケーションが起き，再び人口が増加した。

【加点ポイント】

ⅰ）第 1 期（3 点）

①「終戦直後／1945～1955 年頃　」は「人口が増えた／人口が急増した」　→1 点

②（①の理由）職を求める人の流入／地方出身者の流入／東京は職が多かった　→2 点

ⅱ）第 2 期（5 点）

③「1950 年代中頃から／1955～1995 年頃／①の後」は「人口が減少した／流出した」　→1 点

④（③について）ドーナツ化現象が起こった　→1 点

⑤（③④の理由）過密／住環境の悪化／騒音　→1 点

⑥（③④の理由）地価の高騰／地価の上昇　→2 点

ⅲ）第 3 期（7 点）

⑦「1990 年代後半以降／1995 年から／2000 年頃から／③の後」は
「人口が増えた／人口が急増した／人口が都心回帰した」　→1 点

⑧（⑦の理由）バブル経済の崩壊／バブル崩壊
⑨（⑦の理由）地価の下落
⑩（⑦の理由）再開発／高層マンションの増加／住宅供給の増加
⑪（⑦の理由）富裕層が流入した／ジェントリフィケーションが起こった
} 1 つ 2 点 6 点まで

問 3　15 点

水田は米の生産の場となるだけでなく，一時的に雨水を貯留して洪水や土砂崩れを防止したり，河川や地下水に少しずつ水を供給して，それらの水量を安定させたりする機能を持つ。また，メダカ，カエル等の生物を育み，都市部ではヒートアイランド現象を緩和する水場としても機能するほか，美しい農村景観の構成要素にもなる。

【加点ポイント】

水田の機能として（15 点）

①雨水を貯留する／遊水池／洪水調節／河川の水量を安定させる
②土壌流出を防ぐ／土砂崩れを防ぐ
③生物を育む／虫や鳥の餌場となる／生態系を維持する
④ヒートアイランド現象の緩和／気温調節
⑤美しい農村景観の構成要素となる
⑥水田の土層により水をろ過しきれいにする／地下水をつくる
} 1 つ 5 点 15 点まで

（※「米の生産」は問題文に含まれるため加点しない）